

発展練習問題 9-4

<解答>

仕 掛 品			
前 月 繰 越	(25,000)	[製 品]	(278,000)
直 接 材 料 費	(156,000)	[仕 損 品]	(13,000)
直 接 労 務 費	(158,000)	[次 月 繰 越]	(203,000)
直 接 経 費	(12,000)		
製 造 間 接 費	(143,000)		
	<u>(494,000)</u>		<u>(494,000)</u>

製 品			
[前 月 繰 越]	(87,000)	[売 上 原 価]	(228,000)
[仕 掛 品]	<u>(278,000)</u>	[次 月 繰 越]	<u>(137,000)</u>
	<u>(365,000)</u>		<u>(365,000)</u>

【解説】

仕損を伴う個別原価計算では基本練習問題 9-2 のような原価計算表の作成を問う問題が多く出題されるが、本問では原価計算表の作成ではなく、仕掛品勘定と製品勘定の作成を問う出題形式となっていて基本練習問題 9-2 よりも難易度が高まっている。原価計算表を作成する際の仕損費及び仕損品評価額の処理に伴って発生する仕訳が正しく理解できているか、特に仕損費は最終的に相殺されるため仕掛品勘定には現れない点がポイントになる。

以下では各製造指図書で発生する仕訳をすべて示して詳細な解説を行っているが、問題を解くという観点で考えれば、ポイントは仕掛品勘定の貸方だけである。3箇所ある〔 〕のうち2箇所は「製品」と「次月繰越」が入ることは明らかである。残り1箇所が「仕損費」か「仕損品」で迷うが、仕損費は相殺されて仕掛品勘定には現れないため、残り1箇所には仕損品が入るとわかれば、詳細な仕訳を行わなくても問題を解くことは可能である。

①No. 502 を製造した際の仕訳

(借) 仕 掛 品	55,000	(貸) 材 料	11,000
		賃 金	23,000
		外注加工賃	2,000
		製造間接費	19,000

※No. 502 には前月繰越分 25,000 円があるから、No. 502 の製造に要した製造原価の合計額は 80,000 円である。

②No. 502 で仕損が発生した時の仕訳

(借) 仕 損 費	67,000	(貸) 仕 掛 品	67,000
仕 損 品	13,000	(貸) 仕 掛 品	13,000

※No. 502 には前月繰越分があるため、①より仕掛品勘定の借方残高は 80,000 円である。したがって、
②の仕訳により仕掛品勘定の残高は相殺消去されて、仕損費と仕損品に振り替えられる。

③No. 502-1 を発行して製造をやり直した際の仕訳

(借) 仕 掛 品	74,000	(貸) 材 料	24,000
		賃 金	21,000
		外注加工賃	3,000
		製造間接費	26,000

④No. 502 で発生した原価を仕損費として No. 502-1 に振り替える仕訳

(No. 502-1 の製造原価に加算)

(借) 仕 掛 品	67,000	(貸) 仕 損 費	67,000
-----------	--------	-----------	--------

⑤No. 502-1 が完成した時の仕訳 (③と④の仕掛品の合計額)

(借) 製 品	141,000	(貸) 仕 掛 品	141,000
---------	---------	-----------	---------

⑥No. 503 を製造した際の仕訳

(借) 仕 掛 品	137,000	(貸) 材 料	44,000
		賃 金	57,000
		製造間接費	36,000

⑦No. 503 が完成した時の仕訳

(借) 製 品	137,000	(貸) 仕 掛 品	137,000
---------	---------	-----------	---------

⑧No. 504 を製造した際の仕訳

(借) 仕 掛 品	165,000	(貸) 材 料	67,000
		賃 金	45,000
		外注加工賃	5,000
		製造間接費	48,000

⑨No. 504-1 を発行して補修を行った際の仕訳

(借) 仕掛品	38,000	(貸) 材料	10,000
		賃金	12,000
		外注加工賃	2,000
		製造間接費	14,000

⑩No. 504-1 で発生した原価を仕損費に振り替える仕訳

(借) 仕損費	38,000	(貸) 仕掛品	38,000
---------	--------	---------	--------

⑪No. 504-1 で発生した仕損費を No. 504 に振り替える仕訳 (No. 504 の製造原価に加算)

(借) 仕掛品	38,000	(貸) 仕損費	38,000
---------	--------	---------	--------

以上の①～⑪の仕訳を仕掛品勘定に転記すると次のようになる。

[借方]

- ・前月繰越 前月から製造に着手していたのは No. 501 だけで資料 2 より 87,000 円
- ・材料 $\textcircled{1}11,000 + \textcircled{3}24,000 + \textcircled{6}44,000 + \textcircled{8}67,000 + \textcircled{9}10,000 = 156,000$ 円
- ・賃金 $\textcircled{1}23,000 + \textcircled{3}21,000 + \textcircled{6}57,000 + \textcircled{8}45,000 + \textcircled{9}12,000 = 158,000$ 円
- ・外注加工賃 $\textcircled{1}2,000 + \textcircled{3}3,000 + \textcircled{8}5,000 + \textcircled{9}2,000 = 12,000$ 円
- ・製造間接費 $\textcircled{1}19,000 + \textcircled{3}26,000 + \textcircled{6}36,000 + \textcircled{8}48,000 + \textcircled{9}14,000 = 143,000$ 円

[貸方]

- ・製品 $\textcircled{5}141,000 + \textcircled{7}137,000 = 278,000$ 円
- ・仕損品 $\textcircled{2}13,000$ 円
- ・次月繰越 当月から製造に着手して未完成なのは No. 504 だけなので、 $\textcircled{8}$ と $\textcircled{11}$ より $\textcircled{8}165,000 + \textcircled{11}38,000 = 203,000$ 円

なお、仕損費は $\textcircled{2}$ と $\textcircled{4}$ 、 $\textcircled{10}$ と $\textcircled{11}$ の仕訳で相殺消去されるため残額は 0 円となるため、仕掛品勘定には現れない点に注意が必要である。

続いて、製品勘定は次の通りである。

[借方]

- ・前月繰越 前月から製造に着手したのは No. 501 だけなので資料 2 の 87,000 円を記入
- ・仕掛品 $\textcircled{5}141,000 + \textcircled{7}137,000 = 278,000$ 円

〔貸方〕

- ・ 売上原価 資料 2 より、販売済は No. 501 と No. 502-1 だから、No. 501 (87,000 円) と No. 502-1 (141,000 円) の合計額 228,000 円を記入
- ・ 次月繰越 資料 2 より、月末時点で完成し、かつ未販売は No. 503 だけなので⑦より 137,000 円を記入

〈参考〉

問題文では一部だけしか与えられていない原価計算表を完成させると次のようになる。

原 価 計 算 表

	製造指図書					合 計
	No. 502	No. 502-1	No. 503	No. 504	No. 504-1	
前月繰越	25,000	0	0	0	0	25,000
直接材料費	11,000	24,000	44,000	67,000	10,000	156,000
直接労務費	23,000	21,000	57,000	45,000	12,000	158,000
直接経費	2,000	3,000	0	5,000	2,000	12,000
製造間接費	19,000	26,000	36,000	48,000	14,000	143,000
小 計	80,000	74,000	137,000	165,000	38,000	494,000
評価額	△13,000	0	0	0	0	△13,000
仕損費	△67,000	67,000	0	38,000	△38,000	0
合 計	0	141,000	137,000	203,000	0	481,000
製造着手日	20X1. 6. 23	20X1. 7. 5	20X1. 7. 13	20X1. 7. 19	20X1. 7. 22	
完 成 日	—	20X1. 7. 19	20X1. 7. 25	—	—	
備 考	No. 502-1 へ	完成・引渡済	完成・未引渡	未完成	No. 504 へ	